

Yahoo! JAPAN、IoT時代に向けた事業者向けプラットフォーム 構想を発表 新たな体験を提供するユーザー向けスマホアプリ 「myThings」も公開

～ 全てのモノがインターネットにつながる近い未
来に
あらゆる企業・開発者とともにIoTの力を人々のも
とへ届ける ～

ヤフー株式会社（以下、Yahoo! JAPAN）は、来るIoT時代に向け、事業者向けプラットフォームサービス「myThingsプラットフォーム」の提供を開始します。併せて、本プラットフォームを活用して開発したユーザー向けスマートフォンアプリ「myThings」（iOS/Android用）を本日公開しました。

昨今、家電製品や自動車など身の回りのさまざまなモノ（製品）とインターネットをつなげて、新しい価値を創出するIoT（Internet of Things）分野に注目が集まっており、日常で使用する製品以外にも医療や農業、交通インフラなど幅広い活用が期待されています。

Yahoo! JAPANは広がりを見せるIoT分野に対して、インターネットサービス事業者の目線で“ユーザーの生活を豊かにする”ことを目的として以下の取り組みを開始します。

1. 事業者向けプラットフォームサービス「myThingsプラットフォーム」の提供

「Connect Everything（全てをつなげる）」をコンセプトとした、さまざまなIoT製品やWEBサービスのAPIを集めた事業者向けプラットフォームサービス「myThingsプラットフォーム」を提供します。事業者は本プラットフォーム上に公開されているAPIを使い、新製品・サービスの開発や、既存製品・サービスの新しい価値の創出が可能となります。また、自社製品・サービスのAPIを本プラットフォーム上に公開し、他事業者がそのAPIを活用することで、製品・サービスに本来想定していなかった付加価値が生み出されます。

Yahoo! JAPANは、本プラットフォームをIoT分野での取り組みの基盤とし、多くの事業者と連携しながら本プラットフォームを拡充していきます。まずは、協力いただける事業者に対して個別に本プラットフォームを提供し、連携しながら新たな製品・サービスの開発に取り組みます。そして、将来的には大手から中小企業、個人まであらゆる事業者・開発者が、あらゆるAPIを利用できるよう本プラットフォームをオープン化していきます。オープン化により、製品とWEBサービスの融合が容易に行える環境を実現することで、IoT分野の発展と人々の生活を豊か

一般利用者

myThings
プラットフォーム

IoT製品

サービス
アプリケーション

モノ、WEBをつなぐプラットフォーム

2. “組み合わせ”という新体験を提供するユーザー向けスマホアプリ「myThings」の提供

モノとサービス、サービスとサービス、モノとモノなど、自分が使用しているIoT製品やWEBサービスを組み合わせる新しい便利な使い方を生み出せるスマートフォンアプリ「myThings」を本日公開しました。本アプリは「myThingsプラットフォーム」を活用して開発したもので、1つのモノやサービスだけでは味わえない“組み合わせ”による新体験をユーザーに提供します。

例えば、「GYAO!」やYouTubeで好みの動画が公開されたらその動画のリンクを自動的に保存して見逃しを防止したり、インターネットにつながった室内温度計が一定の温度を超えたらメールで知らせ、自分や家族の室内熱中症の予防につなげたりすることができます。

今後、利用シーンをさらに増やし、“最高気温が高い日は、朝、エアコンを自動的に起動して、快適に目覚められる”“ユーザーの眠りを感知したら家電製品の電源を切り、節電に役立てる”“帰宅時、最寄駅に着いたら自宅の照明をつけて、安心して家に帰れるようにする”など、生活の中でより役立つ組み合わせの提供を目指していきます。

本アプリ内には、オススメの組み合わせがあらかじめ用意されており（※1）、ユーザーは好きな組み合わせを選ぶだけで利用いただけます。また、本アプリ内で使用できるIoT製品やWEBサービスといくつかの条件を組み合わせ、ユーザー自身が新しい使い方を作成することもできます（※2）。

さらに、個人開発者が自作したIoTデバイスと本アプリと連携させることもできます。株式会社IDCフロンティアと協力して提供する「IDCF」チャンネルを利用すれば自作IoTデバイスと本アプリをつなげて、新しい組み合わせを作ることができます。





Yahoo! JAPANでは、インターネットを使って人や社会の課題を解決していく「課題解決エンジン」を目指しています。IoT時代においても事業者向けサービス「myThingsプラットフォーム」とユーザー向けアプリ「myThings」を通してユーザーの生活を豊かにするための「課題解決」を進めてまいります。

※1 おすすめの組み合わせは季節やトレンドに合わせて更新していきます。

※2 組み合わせられるIoT製品やWEBサービスは現在30種類です。随時追加を行っていきます。